

郊外地域における空き家の活用阻害因と解決策の実践（つくばハウジング研究会）

課題	つくば市の空き家無料相談会で未解決者が郊外を中心に約5割に達している。さらに、空き家活用団体では活用継続が人的・経済的に難しいことが多い。これら問題の解決が求められている。
目的	空き家の利活用が難しい郊外(衰退)地域での解決策を示すことである。
取組内容	<p>(1) 阻害因の分析：空き家無料相談を通して、郊外特有の活用阻害因を把握・分析する。</p> <p>(2) 活用提案と試行：空き家活用団体の調査を行い、活用モデル(解決策)を提案し試行する。</p> <p>(3) 社会実験の実施：郊外戸建住宅地の活性化に向けた自治体の支援策を想定して、空き家バンク登録時の住宅診断補助と、2敷地合体時の公租公課等の補助について社会実験を行う。</p>
成果	<p>(1) 空き家相談約215件の内容を分析・整理し、郊外地域での活用阻害因と解決策をまとめた。</p> <p>(2) 空き家活用実施10団体の活用実態と活用希望側団体の要望を把握した。また、空き家活用を継続するための方法として、複数団体による相乗り利用による解決策を提案し試行した。</p> <p>(3) 社会実験の参加者を募集し、空きバンク登録時の住宅診断応募者3件、2敷地合体応募者2件を得た。その成果を踏まえ、自治体の空き家活用支援策として有効であることを確認した。</p> <p>以上の成果を「郊外地域での空き家活用の推進方法」としてまとめ、当会ホームページで公開した。</p>

- (1) 期間中に本会5件、市12件の相談を実施した市の過去分含め215件の相談内容を分析

空き家や空き部屋をお持ちの方 お気軽にご相談ください

空き家等の無料相談

特定非営利活動法人 つくばハウジング研究会
自治体等による「空き家相談」を補完する活動です

- (2) 福祉カフェにおいて複数団体の相乗り利用を提案し試行



- (3) 社会実験2課題5件を実施



空き家バンクの住宅診断補助

敷地合体補助

